

生活習慣病からみた運動器疾患

山内 美香

Summary

2型糖尿病(DM), 慢性腎臓病(CKD), 慢性閉塞性肺疾患(COPD)といった生活習慣病が, 骨や筋に影響し, 骨粗鬆症やサルコペニアなどの運動器疾患をきたす。骨粗鬆症性の骨折やサルコペニアにより日常生活動作(ADL)が低下し運動療法ができなくなることで, 生活習慣病の病態の悪化や, 予後に悪影響を及ぼす可能性が指摘されている。したがって, これらの生活習慣病患者では, 骨粗鬆症やサルコペニアの有無について積極的に評価し, 予防と治療を行うことが重要である。

Key words

糖尿病
慢性腎臓病
慢性閉塞性肺疾患
骨粗鬆症
サルコペニア

Mika Yamauchi

栄宏会小野病院骨代謝疾患研究所内分泌代謝内科

はじめに

2型糖尿病(diabetes mellitus ; DM)や慢性腎臓病(chronic kidney disease ; CKD), 慢性閉塞性肺疾患(chronic obstructive pulmonary disease ; COPD)などの生活習慣病が骨粗鬆症をはじめとする運動器疾患に影響を及ぼすことを示す多くの報告が集積された。これをふまえて『骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版』においても, 疾患関連発性骨粗鬆症として生活習慣病関連骨粗鬆症が加えられた¹⁾²⁾。現在, 生活習慣病関連骨粗鬆症として確立されている疾患は, コントロール不良の2DMとステージG3以上のCKDであり, COPDについてもエビデンスが集積しつつある¹⁾。生活習慣病における骨脆弱化の機序や骨折リスクの評価・管理について解説した『生活習慣病骨折リスクに関する診療ガイド 2019年版』は, 最新の情報が加えられた²⁾。また, 生活習慣病は筋にも影響しサルコペニアをきたすことから『サルコペニア診療ガイドライン 2017年版』でも2DMとCKD, COPDが取り上げられている³⁾。本稿では, 生活習慣病が運動器疾患に及ぼす影響について, 骨粗鬆症とサルコペニアを中心に概説する。

骨粗鬆症

1. 2DM

2007年に1型のみならず2DMにおいても大腿骨近位部骨折リスクが高く, メタ解析で相対リス